

JMS NOTES



「人と医療のあいだに・・・」

第51期 事業のご報告

2015年(平成27年)4月1日～2016年(平成28年)3月31日

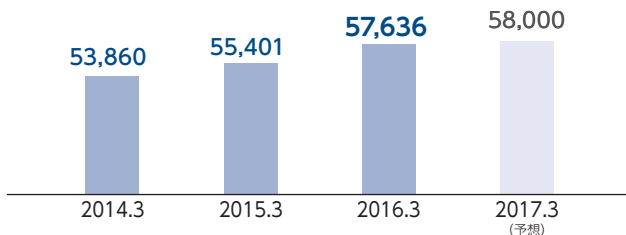
連結財務ハイライト

売上高

576億36百万円

(百万円)

■ 通期 ■ 予想



経常利益

親会社株主に帰属する当期純利益

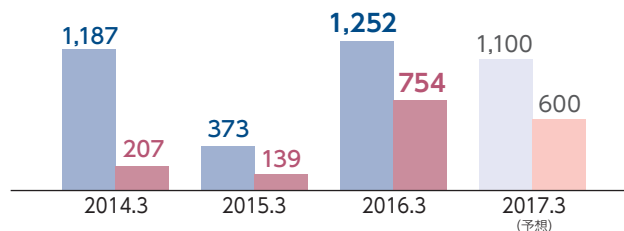
12億52百万円

7億54百万円

(百万円)

■ 経常利益 ■ 予想

■ 親会社株主に帰属する当期純利益 ■ 予想

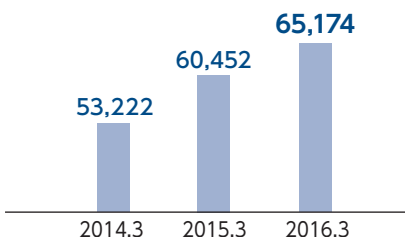


総資産

651億74百万円

(百万円)

■ 通期

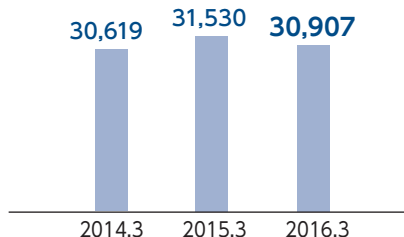


純資産

309億7百万円

(百万円)

■ 通期

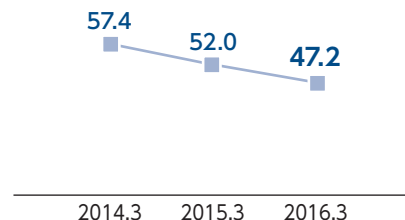


自己資本比率

47.2%

(%)

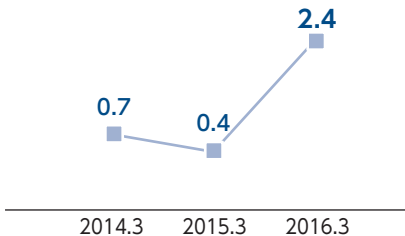
■ 通期



自己資本当期純利益率(ROE) 2.4%

(%)

■ 通期

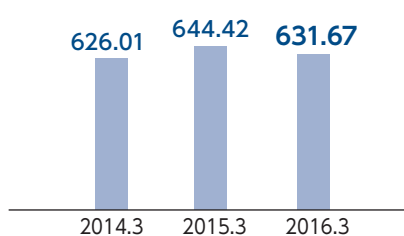


1株当たり純資産

631円67銭

(円)

■ 通期

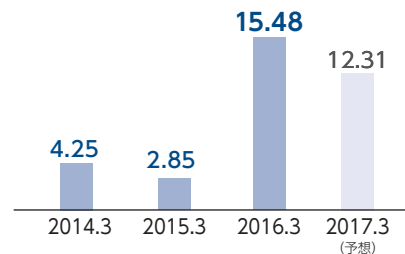


1株当たり当期純利益

15円48銭

(円)

■ 通期 ■ 予想



【見通しに関する注意事項】

上記予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに、当社第51期(2015年4月1日から2016年3月31日まで)のJMS NOTESをお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

当社グループの業績は、国内においては、白血球除去フィルター付血液バッグの販売開始に加え、人工心肺装置の販売が増加しました。海外においては、AVF針(血液透析用針)と成分献血用回路の販売が好調に推移しました。

この結果、連結売上高は576億36百万円(前連結会計年度比4.0%増)となりました。

利益につきましては、増収効果に加え、コスト低減活動が寄与したこと等により、営業利益は14億22百万円(同275.3%増)となりました。また、持分法による投資利益を計上した一方で、為替差損を計上したこと等により、経常利益は12億52百万円(同235.4%増)となり、税金費用等を差し引いた結果、親会社株主に帰属する当期純利益は7億54百万円

(同442.5%増)となりました。

期末配当金につきましては、利益配分に関する基本方針に基づき、1株につき4円の普通配当と創立50周年の記念配当2円を加えた合計6円とさせていただきます。これにより、年間配当金は中間配当金(1株につき4円)と合わせまして、1株につき10円となります。

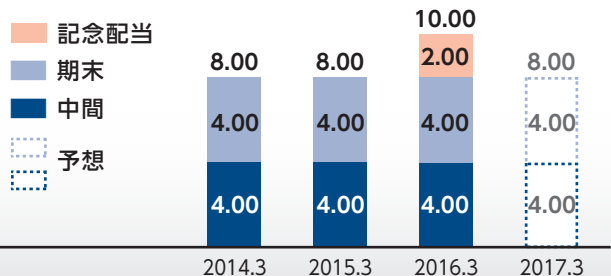
さて当社では、かねてより建設を進めておりましたJMSヘルスケア・フィリピンと出雲工場第6期棟が竣工し、今春より稼働を開始いたしました。将来を見据えたこれら国内外生産拠点の増強は、JMSグループが成長していくための大きな力になると確信しております。

これからも創業精神「かけがえのない生命のために」のもと、医療現場の声に耳を傾け、そのニーズに沿った製品の開発、提供を通じて、「人と医療のあいだの架け橋」となって世界の医療に貢献してまいります。

株主の皆様には、今後とも格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2016年6月

【配当金の推移】



代表取締役社長
奥窪 宏章

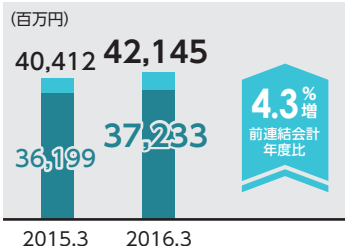


【所在地別】

日本

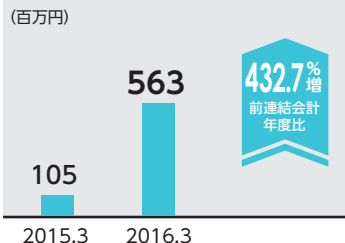
売上高 **421億45百万円**

(外部顧客への売上高 372億33百万円)



白血球除去フィルター付血液バッグの販売開始に加え、人工心肺装置の販売が増加しました。

セグメント利益 **5億63百万円**

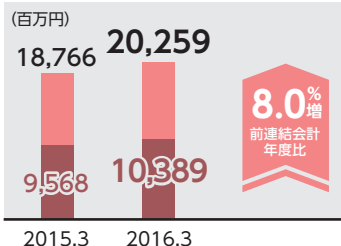


増収効果やコスト低減効果に加え、子会社配当の受取額の増加により利益が増加しました。

東南アジア

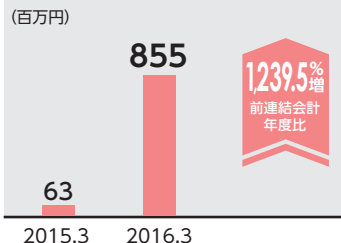
売上高 **202億59百万円**

(外部顧客への売上高 103億89百万円)



北米向けの成分献血用回路の販売が増加しました。

セグメント利益 **8億55百万円**

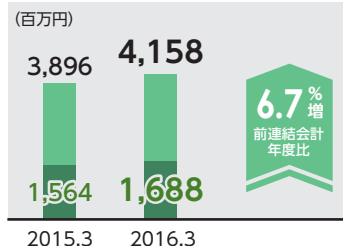


増収効果に加え、為替による外貨建て売上取引にかかる収益の増加により利益が増加しました。

中国

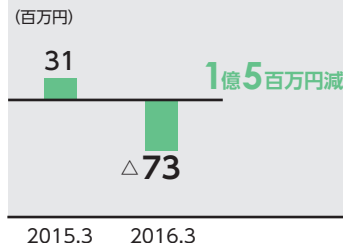
売上高 **41億58百万円**

(外部顧客への売上高 16億88百万円)



日本向けの輸液セットの販売が増加しました。

セグメント損益 **△73百万円**



為替による円建て売上取引にかかる収益の減少により損失となりました。

(注) セグメント利益は、経常利益ベースの数値であります。

白血球除去フィルター付血液バッグ

献血で採血した血液の保存、輸血に用いられるバッグです。採血した血液から、輸血による副作用の原因の一つである白血球を取り除くフィルターが付いています。



AVF針(血液透析用針)

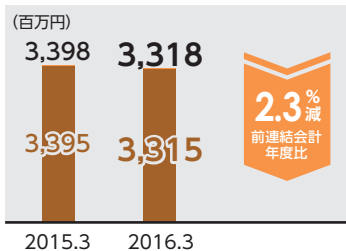
血液透析を行う際に、シャント(動脈と静脈を接合した部位)から血液を体外へ取り出すための針です。



ドイツ

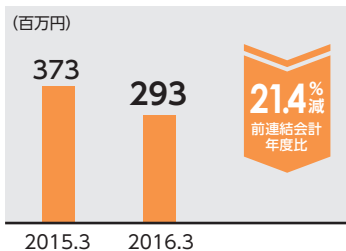
売上高 **33億18百万円**

(外部顧客への売上高 33億15百万円)



EU圏におけるAVF針(血液透析用針)の販売が増加したものの、円貨換算により減少しました。

セグメント利益 **2億93百万円**

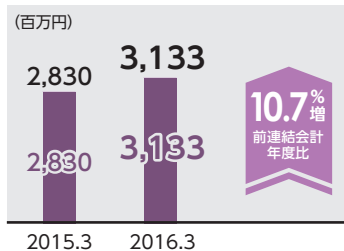


為替による外貨建ての仕入取引にかかる原価の増加により利益が減少しました。

アメリカ

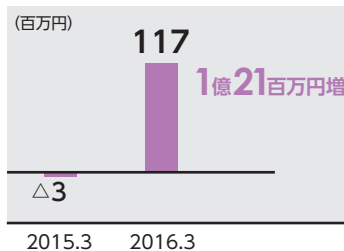
売上高 **31億33百万円**

(外部顧客への売上高 31億33百万円)



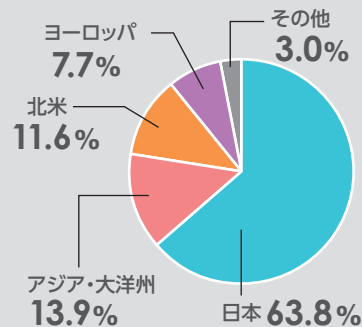
中南米向けのAVF針の販売が増加しました。

セグメント利益 **1億17百万円**

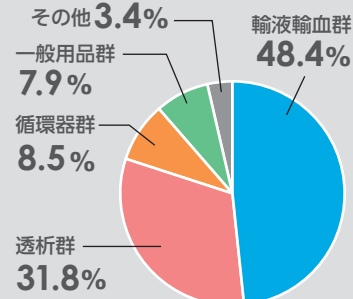


貸倒引当金繰入額の減少により黒字となりました。

地域別売上高構成比



システム別売上高構成比



輸液輸血群

輸液セット、経腸栄養システム製品、血液バッグ、成分献血用回路、シリンジ(注射筒)、注射針 他

透析群

血液透析装置、人工腎臓用血液回路、AVF針、プレフィルドシリンジ製剤、腹膜透析液 他

循環器群

膜型人工肺、ペースメーカー、人工心臓装置、人工心臓回路、血管造影用・治療用カテーテル 他

一般用品群

医療用手袋、不織布製品 他

プレフィルドシリンジ製剤「ヘパフィルド」

薬剤があらかじめ充填されたシリンジ(注射筒)です。薬剤を注射器に移し替える操作が不要なため、細菌汚染や異物混入リスクの低減及び、薬剤の誤投与を防止します。



プレコネクティング心肺回路

さまざまな医療機器とチューブを接続し、事前に回路をセットアップしています。手術準備に要する手間の解消、誤接続や汚染の防止だけでなく、包材の少量化により廃棄物の量を低減します。



より安全・安心で使いやすい医療機器を追求し、 プラスチック材料から自社一貫体制で開発・製造しています。

当社は創業以来、より優れた医療機器を製造・提供していくことを大切にしてきました。その精神は、製品を開発・製造するだけではありません。医療機器に使用するプラスチック材料は、薬液の種類や治療内容によって柔らかさや科学的性質など、求められる特性が異なります。

そのため当社は、製品の性能や安全性をより高めていくには、プラスチック材料も自社で研究・製造・管理していくことが大切と考え、自社開発・製造に取り組んでいます。今回は、プラスチック材料の製造についてご紹介します。



JMSでのプラスチック原料から製品製造までの流れ


化学メーカー
から調達

- ◎プラスチック原料
- ◎添加剤
- ◎安定剤 など

STEP①

ペレット製造

原料や添加剤を配合し、材質の異なる複数のペレットを製造



STEP②

チューブ・シート成形

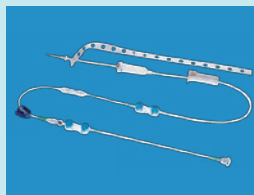
医療機器の用途にあわせたチューブやシートに成形



STEP③

製品製造

チューブ状やシート状のプラスチック材料を加工・組立し、各製品を製造・滅菌

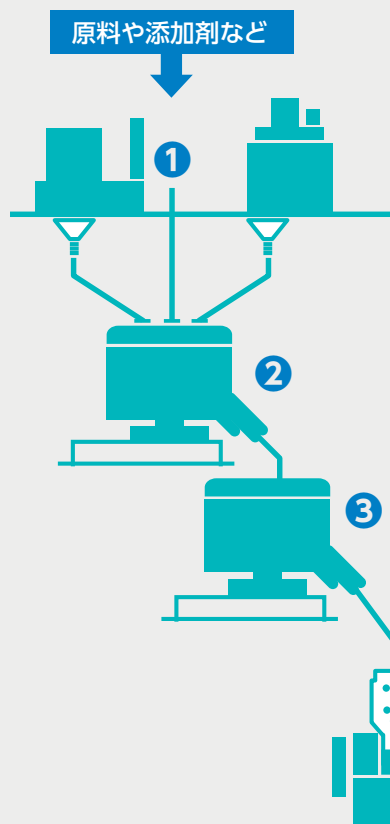


医療機関へ



STEP ① ペレット製造

当社では、チューブ状やシート状のプラスチック材料の成形に使用するペレットを自社製造しています。ペレットはプラスチック材料に求められる特性に合わせて、柔軟性や化学的性質がそれぞれ異なります。ここでは、プラスチック原料からペレットを製造するまでの工程をご紹介します。



① 計量・配合

複数のプラスチック原料を正確に計量し、添加物や安定剤を加え、JMS独自基準の規格に配合します。

② ミキシング

①で配合した原料をミキサーに投入し、配合ムラをなくすよう混ぜ合わせます。

③ 冷却ミキサー

熱を帯びたプラスチック原料を混ぜながら、加工に適した温度まで冷却していきます。

④ 押出成形・ホットカッター

混ぜ合わせた原料を押出成形機で細い線状に加工し、カッターで細かく刻んで粒状ペレットにします。

⑤ ペレットクーラー

成形したてのペレットは熱を帯びているためペレットクーラーで冷却することで完成します。

ペレット完成

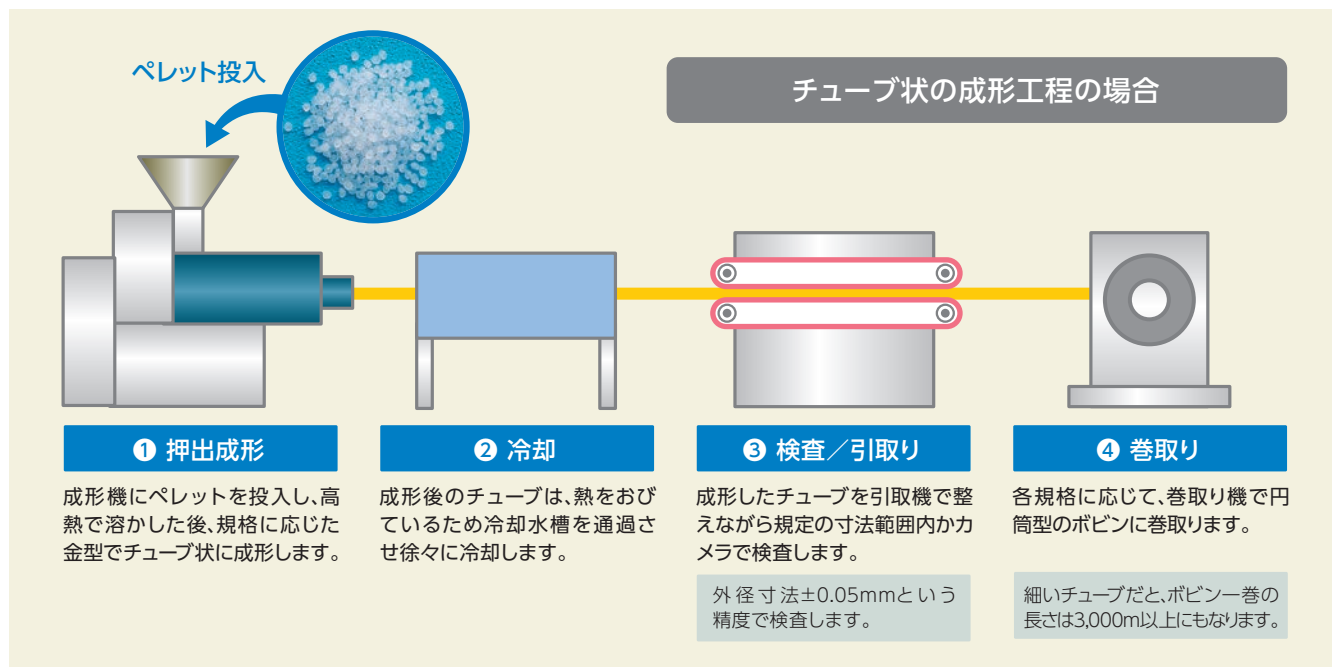
ペレットの状態で保管しておき、生産計画に応じて、次のチューブ・シート成形に使用します。

保管

チューブ・
シート
成形へ

STEP 2 チューブ・シート成形

製造したペレットをチューブ状やシート状のプラスチック材料に成形します。直径や厚さ、硬さ、機能性、着色など異なる規格のプラスチック材料を用意しており、医療機器の仕様にあわせて利用します。



【プラスチック材料】



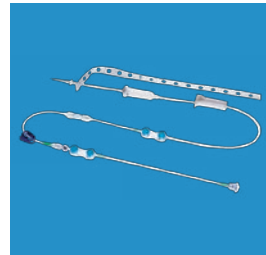
チューブ



シート

STEP 3 製品製造

各製品の組立工程へ



■ 品質管理体制

当社では、医療機器の品質を極限まで高めて行けるよう、生産工程での品質管理を徹底しています。それはプラスチック材料の製造工程においても同様です。ペレット製造からプラスチック材料成形の各工程において、厳しい品質基準で管理しており、ポイント毎に品質検査を行い、合格したものだけを次工程へ送る体制を整えています。



■ クリーンルーム

プラスチック材料の成形工程においても、エアーシャワールームや工場内での空調管理で埃等を徹底除去するとともに、クリーンルーム専用の作業服着用など、製品製造のクリーンルームと同等の環境を整えています。



■ より人にやさしく、地球にもやさしく。研究・技術開発体制

当社では、製品開発においては医療現場の声を聞き、その要求にきめ細かく応えられるよう、営業部門と研究・技術開発部門が一体となって取り組んでいます。

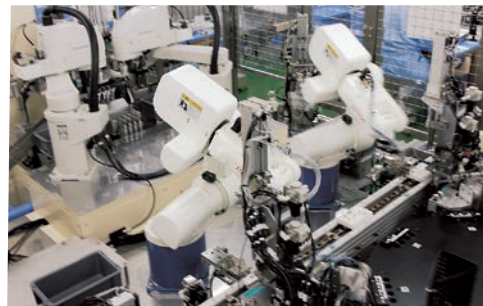
医療機器のプラスチックパーツに対して、形状や操作性はもちろん、破損や薬液などへの耐久性、製品部位によっては透明度など、さまざまな要求があります。また自社製品だけでなく他社製品との接続性や、ISOなどの規格への適合に関する品質保証も大切になります。そして、こうした要求は日々進化しています。

当社では、営業部門が医療現場から聞き取った課題に対し、プラスチック材料から製品まで自社



で研究・技術開発することにより、医療現場の要求にすばやく柔軟に応え、製品を安定供給する原動力としています。

今後は、医療現場において安全・安心で、生体適合性や生分解性に優れ、患者さんのからだへの負担がより軽減される材料の研究や、CO₂排出削減など地球環境にやさしいプラスチックの開発にも取り組んでまいります。



●よりグローバルに、最先端に。生産体制を強化し、事業拡大を推進。

フィリピン新工場と出雲工場第6期棟、稼働開始！

当社は、増大する国内外の医療機器需要への対応力をさらに高めるために、フィリピンでの新工場建設と出雲工場の増築による生産拠点の拡充を進めてまいりました。本年4月、フィリピン新工場は開所式、出雲工場第6期棟は竣工式を開催し、本格的に稼働を開始しました。

JMSヘルスケア・フィリピン

新興国の経済成長にともない世界のマーケットニーズはさらなる増加が見込まれており、それに積極的に対応していくよう、5番目の海外生産拠点としてフィリピン共和国を選定。

JMSヘルスケア・フィリピンでは、日本国内で培った“少人化”設備を導入し、アジアをはじめ周辺各国や欧州・中南米に向けて血液バッグやAVF針（血液透析用針）、輸液セットなどの製品を安定した品質と競争力あるコストで提供してまいります。

今後さらにグループ生産体制の再編による世界最適地生産を推進し、グローバルな事業拡大に取り組んでまいります。



上：開所式の様子 下：JMSヘルスケア・フィリピンの工場外観

出雲工場第6期棟

日本では高齢化を背景に医療機器の需要が伸びており、また医療現場では、医療の安全や効率化、患者さんのQOL（クオリティ・オブ・ライフ）向上に対する意識がますます強くなっています。

こうしたニーズに柔軟かつ的確に対応していくため、国内主力工場のひとつである出雲工場を増築。医療現場で需要が拡大しているプレフィルドシリンジ製剤の容器を成形する自動化ラインや人工心肺関連製品の製造ラインに加え、滅菌設備や材料の自動倉庫なども導入しました。効率的な生産体制を整え、供給能力の増大とコスト競争力の向上を図ってまいります。



上：竣工式の様子 下：出雲工場（右上の建物が第6期棟）

●出雲工場、長年の事業活動が評価され2つの賞を受賞

「ふるさと企業大賞(総務大臣賞)」 「永年貢献立地企業表彰」

当社は全国各地の事業拠点において、事業活動を通じ地域とともに発展の歩みを進めています。そうした取り組みや姿勢が評価され、このたび出雲工場が「平成27年度ふるさと企業大賞(総務大臣賞)」と島根県「永年貢献立地企業表彰」という、2つの賞を受賞しました。

当社は、これからも地域振興や地域経済活性化のお役にたてるよう、雇用の創出やものづくりを支える技術の伝承などを積極的に進めてまいります。



表彰式の様子

平成28年度診療報酬改定情報

抗がん剤調製・投与クローズドシステム「ネオシールド®」

「抗がん剤に対する曝露防止対策」が厚生労働省より通達され、抗がん剤の調製・投与における閉鎖式接続器具の必要性が高まっています。

この度の診療報酬の改定では、細胞毒性を有する抗がん剤の調製・投与で対象となる「無菌製剤処理料」の算定要件が見直されました。閉鎖式接続器具を用いることで、抗がん剤の種類や特徴を問わず算定が可能となったため、今後、閉鎖式接続器具「ネオシールド®」への注目が期待されます。

◎抗がん剤の調製・投与に使用されます。閉鎖系の機構により薬剤飛散のリスクを軽減し、医療従事者の方々に抗がん剤曝露から守ります。



「JMS舌圧測定器」

この度の診療報酬改定で「JMS舌圧測定器」を新機能・新技術の区分で申請を行い、特定診療報酬算定医療機器として保険適用となりました。これにより「JMS舌圧測定器」は新設された歯科診療報酬項目「舌圧検査」に使用することができます。

今後、歯科領域での使用拡大が見込まれるとともに、歯科領域に加えて医科診療における普及に向けて取り組んでまいります。

◎舌の力(舌圧)をデジタル方式で測定する医療機器です。摂食・嚥下(えんげ)に深く関係する舌の運動機能を最大舌圧として測定します。



財務諸表《連結》

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前連結 会計年度 2015年3月31日現在	当連結 会計年度 2016年3月31日現在
《資産の部》		
流動資産	34,431	35,205
現金及び預金	4,711	5,927
受取手形及び売掛金	16,233	15,714
たな卸資産	12,460	12,449
その他	1,025	1,114
固定資産……………①	26,021	29,968
有形固定資産	21,055	25,159
無形固定資産	627	508
投資その他の資産	4,337	4,299
資産合計	60,452	65,174

科 目	前連結 会計年度 2015年3月31日現在	当連結 会計年度 2016年3月31日現在
《負債の部》		
流動負債	20,609	21,744
固定負債……………②	8,312	12,522
負債合計	28,922	34,266
《純資産の部》		
株主資本	29,749	30,111
その他の包括利益累計額	1,668	678
非支配株主持分	112	117
純資産合計……………③	31,530	30,907
負債純資産合計	60,452	65,174

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(2015年4月1日～2016年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	7,411	10,362	12,253	△277	29,749	528	1,140	—	1,668	112	31,530
当期変動額											
剰余金の配当			△390		△390						△390
親会社株主に帰属する 当期純利益			754		754						754
自己株式の取得				△3	△3						△3
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△157	△832	—	△989	5	△983
当期変動額合計	—	—	364	△3	361	△157	△832	—	△989	5	△622
当期末残高	7,411	10,362	12,618	△280	30,111	370	308	—	678	117	30,907

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結 会計年度 2014年4月1日～ 2015年3月31日	当連結 会計年度 2015年4月1日～ 2016年3月31日
売上高	55,401	57,636
売上原価	41,948	42,769
売上総利益	13,452	14,866
販売費及び一般管理費	13,073	13,444
営業利益	378	1,422
営業外収益	411	572
営業外費用	417	741
経常利益	373	1,252
特別利益	171	75
特別損失	140	121
税金等調整前当期純利益	404	1,205
法人税等	257	434
当期純利益	146	771
非支配株主に帰属する当期純利益	7	16
親会社株主に帰属する当期純利益	139	754

(注) 金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結 会計年度 2014年4月1日～ 2015年3月31日	当連結 会計年度 2015年4月1日～ 2016年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,901	4,526
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,856	△ 6,254
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,484	3,446
現金及び現金同等物に係る換算差額	184	△ 445
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	2,713	1,272
現金及び現金同等物の期首残高	1,995	4,709
現金及び現金同等物の期末残高	4,709	5,982

>>> POINT 解説

- ① 固定資産**〔前連結会計年度に比べ39億47百万円増加〕
・フィリピン新工場の建設及び出雲工場増築により、有形固定資産が増加しました。
- ② 固定負債**〔前連結会計年度に比べ42億9百万円増加〕
・長期借入金が増加しました。
- ③ 純 資 産**〔前連結会計年度に比べ6億22百万円減少〕
・為替換算調整勘定が減少しました。
- ④ 売 上 高**〔前連結会計年度に比べ22億35百万円増加〕
・12期連続増収。地域別では東南アジア及びアメリカの販売、システム別では輸液輸血群と循環器群の販売が増加しました。
- ⑤ 営業利益**〔前連結会計年度に比べ10億43百万円増加〕
・増収効果に加え、コスト低減活動が寄与したほか、円安による為替換算の影響が有利に作用しました。
- ⑥ 投資活動によるキャッシュ・フロー**
〔前連結会計年度に比べ23億98百万円増加〕
・有形固定資産の取得にかかる支出の増加によるものです。

会社概要 (2016年3月31日現在)

●当社の概要

設 立	1965年(昭和40年)6月12日
資 本 金	7,411,014,445円
上場金融商品 取 引 所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード:7702)
主要な事業内容	医療機器、医薬品の製造・販売 及び輸出並びに輸入
従 業 員 数	1,594人 (グループ総数 6,777人)

●役員

代表取締役社長	奥 達 宏 章	監査役(常勤)	兼 口 昇 万
常務取締役	栗 根 康 浩	監 査 役	林 原 康 三
取 締 役	国 富 純	監 査 役	早稲田 幸 雄
取 締 役	森 川 重 美		
取 締 役	佐 藤 雅 文		
取 締 役	桂 龍 司		
取 締 役	井 口 明 彦		
取 締 役	池 村 和 朗		

※井口明彦氏、池村和朗氏は、社外取締役であります。
※林原康三氏、早稲田幸雄氏は、社外監査役であります。

JMS グローバルネットワーク

グローバル展開を推進するために、生産拠点・販売拠点を各地域に設置し、事業活動を行っています。

海外ネットワーク

子会社

- ① 株式会社 韓国メディカル・サプライ《製造・販売》
- ② ジェイ・エム・エス・シンガポールPTE. LTD.《製造・販売》
- ③ 大連ジェイ・エム・エス医療器具 有限公司《製造・販売》
- ④ ジェイ・エム・エス・ノース・アメリカ・コーポレーション《販売》
- ⑤ バイオニック・メディツインテックGmbH《販売》
- ⑥ PT. ジェイ・エム・エス・バタム《製造》
- ⑦ ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・フィリピン, INC.《製造》



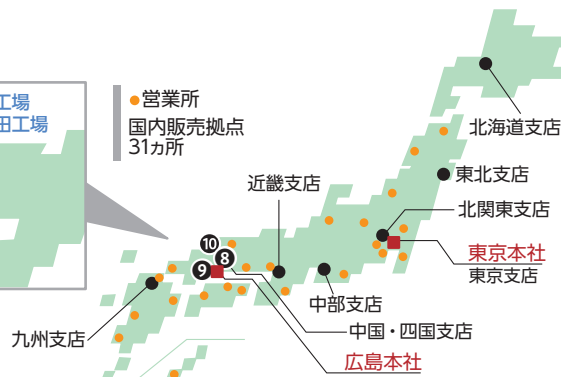
国内ネットワーク

子会社

- ⑧ ジェイ・エム・エス・サービス 株式会社
《医療機器の修理等》
- ⑨ 株式会社 大野《業務請負業》

関連会社

- ⑩ 株式会社 ジェイ・オー・ファーマ《医薬品の製造・販売》

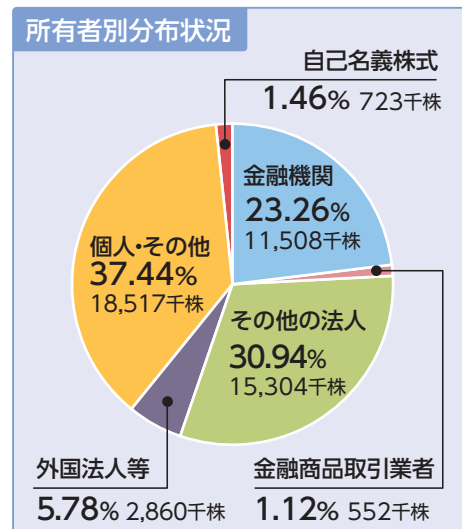


株式概要 (2016年3月31日現在)

◇発行可能株式総数 …… 100,000,000株

◇発行済株式総数 …… 49,466,932株
(自己株式 723,387株を含む)

◇株主数 …… 5,186名

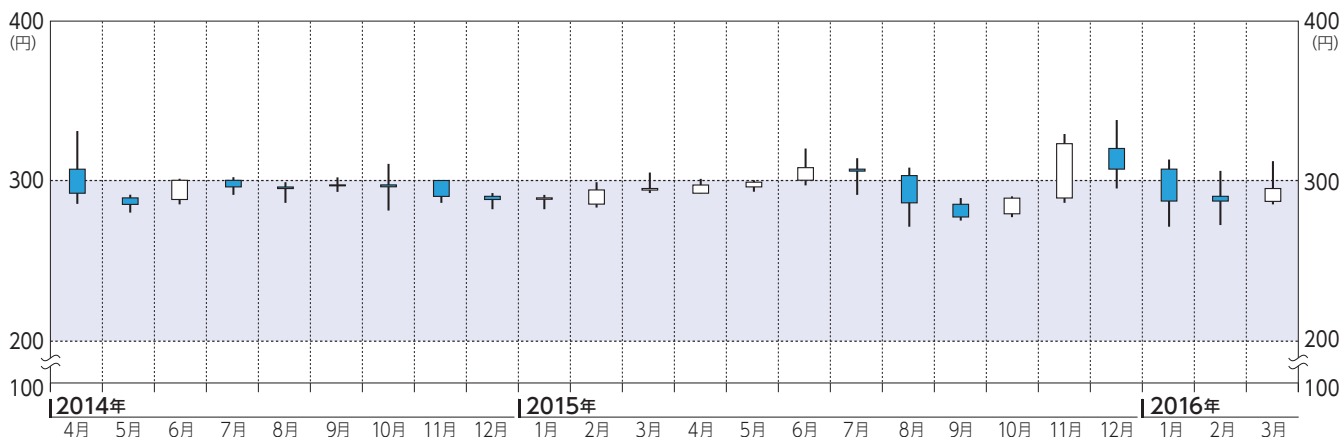


◇大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社カネカ	4,947	10.14
一般財団法人土谷記念医学振興基金	3,800	7.79
土谷佐枝子	2,015	4.13
社会福祉法人千寿会	2,000	4.10
株式会社広島銀行	1,790	3.67
第一生命保険株式会社	1,722	3.53
大下産業株式会社	1,142	2.34
JMS共栄会	1,031	2.11
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	918	1.88
西川ゴム工業株式会社	760	1.55

(注) 持株比率は、自己株式(723,387株)を控除して計算しております。

◇株価推移



株主メモ 証券コード: 7702

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
Tel.0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

公告の方法 電子公告とする。
(<http://www.jms.cc/ir/denshi.html>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって
電子公告による公告をすることができない
場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

ご注意

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



JMS WEBサイトのご案内

当社の経営方針から主な製品、研究開発、IR、腹膜透析等の医療情報まで、多彩な情報を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

▶▶▶ <http://www.jms.cc/> JMS 検索



株式会社 JMS

広島本社

〒730-8652 広島市中区加古町12番17号
TEL 082-243-5844 FAX 082-243-5997

東京本社

〒140-0013 東京都品川区南大井一丁目13番5号 新南大井ビル
TEL 03-6404-0600 FAX 03-6404-0610

【表紙デザイン】

テーマ「贈り物は温かい心」



ギフトボックスから現れる、花や鳥で形づくられたハート。手をつなぎハートを囲む人々。JMSが医療を通じて人々の暮らしの中に、人を想う温かい気持ち、人と人とのつながりを届けようとする姿勢を表現しています。

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを採用しています。